

「ふね遺産」(応募様式) : A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2017年12月10日提出 氏名(個人名または団体の代表者名) : 小嶋良一  
 所属(個人は住所) : 関西設計株式会社  
 メールアドレス : kojima\_r@kansai-design.co.jp  
 その他の連絡先 :

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物 : 阿波藩御召鯨船 千山丸 (全長:10.44m、航長:6.51m、肩幅:1.75m、深さ:0.645m)  所有者 : 徳島城博物館	
2. 対象物の作成・存在時期	安政4(1857)年 建造 阿波藩において、引船もしくは使者船として用いられた。「鯨船」の呼称は、捕鯨船として使用されたわけではなく、捕鯨用の獵船の船型に倣って建造された高速航行が可能な船という意味である。	
3. 現状 (写真添付)	 <p style="text-align: center;">阿波藩 御召鯨船 千山丸</p>	
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	【認定対象】(1), (4) 【認定基準】(7), (12)	
5. 歴史的・工学技術的意義	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築物などでは千年以上前に建設され、現存する例が少ないが、船舶は寿命が来れば廃船・解体されるケースがほとんどである。その中で、千山丸は江戸期に建造されて、現存する唯一の実船である。</li> <li>2. 接合の仕方、板の矧ぎ方など、当時の造船技術の詳細を今に伝える。</li> <li>3. 上棚(うわだな、上部外板)側面には団扇の絵が描かれ、水押(みよし、船首材)には昇竜の彫物を取り付けられており、意匠的にも優れ、当時の藩船の様子を伝えている。</li> <li>4. 「蜂須賀家御船絵巻」や「御船之図」など当時の絵図にも登場し、その所在が明確である。</li> </ol>	
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	船の科学館叢書1 『重要文化財阿波藩御召鯨船 千山丸』 (2004年5月)	

(\*) No.は学会で記載します。

(\*\*) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する項目を、文頭の番号で記載して下さい(複数項目可)。